

特集 IOT を活用した益田市の取組

アイ
オー
ティー



モノのインターネット

日常生活で「インターネット」を毎日のように利用している方は多いと思います。

では、「IoT」はどうでしょう？知らないと答える方がほとんどではないでしょうか。しかし実は、意味を知らない方でも、日常生活でIoTを体験しているかもしれません。

IOTとは「Internet of Things」の略で、「モノのインターネット」と訳されます。身の回りのあらゆる「モノ」が「インターネット」につながり情報をやりとりしている、右上のイラストのようなイメージで捉えてみてください。身近なところでは、「スマート家電」と呼ばれる家庭用電気製品もそのひとつです。

益田市では、このIoT技術を活用して、市が抱える課題を解決するための取組を行っており、全国的にも先駆的な取組として発信しているところとしていきます。

益田市スマート・ヘルスケア推進事業

益田市の健康課題のひとつが、働き盛り世代の脳卒中を減らすことです。そこで、脳卒中の発症要因である「血圧」に注目し、自分で血圧管理をする手法として、IoT技術を活用した取組を始めました。

水路水位測定システム(実証実験中)

豪雨の際の排水や、消防用水、農業用水として用いられる用水路は、平時にも一定量を流し続ける必要があります。樋門を開閉して水量を調節していますが、近年、頻繁に起こる豪雨の際は、昼夜を問わず、何カ所もの水位の把握が必要になります。IoT技術を活用した水位測定システム



システムにより、リアルタイムで何カ所もの水位を把握し、的確な樋門の開閉を行うことで防災につなげることができます。

電源がない屋外で常に水位を測定し、通信することを低コストで行うためには、さまざまな技術開発が必要です。市内でのシステムの実証実験を行うことで、益田市と開発者の双方のメリットが期待されます。将来は、天候から水路の水位予測ができる技術が開発されるかもしれません。

(担当課…下水道課)

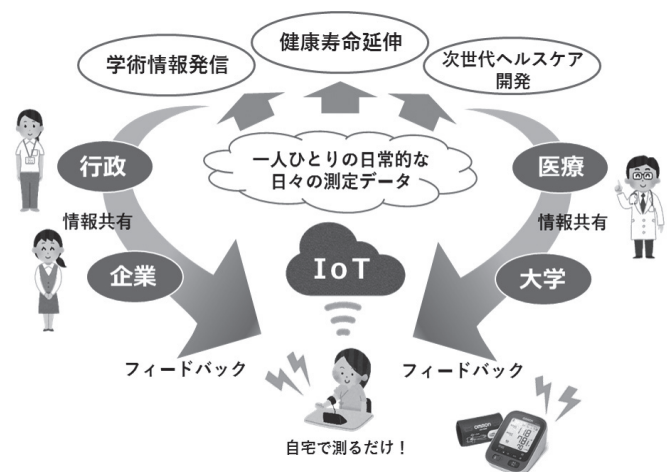
IoTを活用することで、自宅で血圧を測るだけで日々の測定データが集積されます。これにより、高血圧の早期発見・早期治療といった個人の健康寿命の延伸というメリットに加え、統計データが学術的な研究や開発につながることも期待されます。
 (担当課・健康増進課)

IoT技術の実証実験の受入れは、全国各地から技術開発の関係者等が益田市に何度も訪れ、滞在することにつながります。そして、これらの取組は全国的にも先駆的であり、益田モデルとして発信できるものです。今後は、このほかの分野についてもIoT技術の活用を広げていきます。

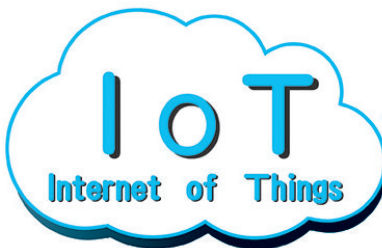
（一社）益田サイバースマートシティ創造協議会
 令和元年度 国土交通省スマートシティモデル事業
 「先行モデルプロジェクト」に選定



昨年、益田市で実証実験を行う関係者が集まり、「一般社団法人益田サイバースマートシティ創造協議会」を立ち上げました。益田市と共同提案した取組が、今年度、国土交通省スマートシティモデル事業の中で、事業の熟度が高く、全国のけん引役となる先駆的な取組を行う「先行モデルプロジェクト」に選定されました。



一人ひとり、きめ細やかな血圧管理へ

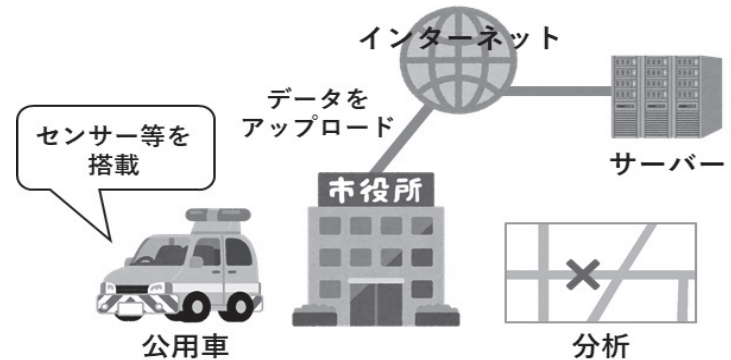


道路モニタリング (実証実験中)

益田市は、総延長約92.6km(平成31年3月末現在)の市道を維持管理しており、現場における目視の確認を日々重ねています。人の目による確認は重要ですが、見えないところ、例えば路面下(地中)の状態の把握や、膨大な距離を詳細に記録するためには、機器や技術を最大限活用することも必要です。

開発中の技術では、車に搭載されたセンサーで道路をモニタリングすることが可能になっています。市の公用車を研究開発に活用することで、いち早くその技術の恩恵を受けることができ、効率的な市道管理につなげていくことができます。

(担当課・土木課維持管理室)



関係人口の拡大、経済波及効果

地域課題・行政課題の解決

【問い合わせ先】市産業支援センター ☎ 31・0341